

公民館講座

長野県産ワイン入門
セミナーリポート



令和 8 年 9 月 1 日現在
世帯数 : 955 世帯
人口 : 1631 人
男 : 779 人
女 : 852 人

第一地区公民館は、8 月 17 日 月曜日午後 6 時から M ウイング 4-4 会議室で、長野県産ワイン入門セミナーを開き、32 歳から 89 歳までの男女 19 人が参加して、佐藤まゆみさん（ソムリエエクセレンス・Bar 5 cm / sec オナー）から県産ワインの基礎知識を学びました。

公民館長のあいさつや講師の紹介のあと、県産ワインの現状についての説明があり、長野県内ワイナリーの数が、今や山梨県を抜いて日本一に上ることや、「竜眼ブドウ」という白ワイン用の品種が O I V (国際ブドウ・ワイン機構) にワイン用ブドウとして登録され、メジャーデビューを果たしたことなどを聞きました。

また、ワインの基礎知識として、ワイン造りに適した気候や、様々な醸造法などを学びました。



座学のあとは、いよいよテイキング。この日は、竜眼を醸した「DOMAINE HIROKI 弘樹」の白ワイン、デラウェアを醸した「DOMAINE DE YUNOHARA」のオレンジワイン、メルローを醸した「DOMAINE KOSEI」のロゼ、メルローとカベルネソーヴィニョンを醸した「信州たかやまワイナリー」の赤が用意されました。

それぞれのワインを楽しみながら、香りや味の特徴を共有し、ワインの醸造法の違いによる、色や味わいについて講師の説明を聞きました。

参加者は各々、感じた香りや味わいを口にしながら、ワインを楽しみ、講師の佐藤さんは「味わいは、人によって感じ方が違うもの。人が言う味わいや香りを感じ取れなかったとしても、全く問題ない。自分自身の感じ方で楽しむのがいちばん」などと話していました。

講座の最後には、参加者から様々な質問がなされ、多くの学びがあるひとときとなりました。

公民館は、「地区内外からたくさんの方の申込みがあり、今まで公民館に足を運んだことのない方々の参加も見られた。参加者からも、ワインの知識が豊かになったとか入門編で参加しやすかったなどの意見が寄せられ、満足度の高い講座となった」と手ごたえを感じていました。



Presented by
視聴覚
委員会

まちかどフォト
～第一地区の夏～



↑ 天神祭り曳行の様子 ↓



松本ぼんぼん ↑

つむぎちゃんサポート
協力会員募集中!

現在、第一地区では、ゴミ出しや家事、掃除、買い物、通院等の日常生活で困っている方をサポートする「つむぎちゃんサポート」事業の協力会員を募集しています。

令和 8 年 10 月と令和 9 年 2 月に実施する「地域の助け合い」活動講座で事業の紹介等を行います。興味のある方、お困りの方は第一地区生活支援員へお知らせください。



子どもたちの夏の伝統行事



8月7日夕方、ぼんぼんと青山様が催行されました。天気は曇りと熱中症も気を付ければ良いくらいの気温で、特に問題はありませんでした。

最初に、『ぼんぼんと青山様』の歴史について長老の方から説明がありました。神輿につけられている『青山神社』と言う札の由来についても聞きました。その後、ぼんぼんの歌の一番を皆で歌って雰囲気盛り上げました。その中で、歌の歌詞がプリントと違うという質問があり、今のところ両方あるのではないかとし、また後ほど再確認するということ、説明は終了となりました。

『青山様』の神輿に青杉の葉を、子ども達で入るだけ入れ出発となりました。

Mウイングを出て新伊勢町方面に向かい「青山様だい わっしょいこらしょ」を2回、一呼吸置いて何度か声を張り上げ連呼し練り歩きました。声が大きく元気の程、頼もしく感じました。ただ女の子の声がかき消されてしまい残念なところではあります。

その途中で外国人の方々非常に興味を示し、写真を撮ったり、説明を求めてきたりしました。

遅れる訳にはいかず、簡単な回答をしたことで終わりの歩みを進めました。

出発準備のためMウイング1階入り口に降りて隊列の方法、行く先の簡単な説明がありました。



その先、本町・中町も外国人の方が大勢、興味を持って見守っていました。今の情勢からして、外国人に対しての対応は難しく簡単な説明文を作り、配付し理解を求めた方が良いのではないかと思います。

参加者の主役は子ども、男の子は小学生4名未就学児3名、女の子は小学生3名未就学児1名と少数にとどまりま

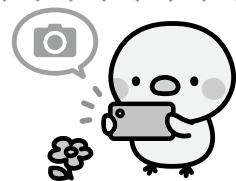


した。

『ぼんぼん、青山様』は、いつごろから始まったのかはつきりしていませんが、江戸時代末期頃から城下町の親町三町(本町・中町・東町)で始まったと言われています。子どもが大勢いた頃は、7日からお盆にかけて町会毎に盛んに行われていました。現在は前述のとおり、地区単位での行事もままならないのが現実です。

かつて『青山様』の神輿が個人の商店に入って、「わっしょいわっしょわあい」と2回出入りし、お賽銭をもらうのも楽しみの一つでしたが、そのような写真は昭和39年頃のものが残っていますが、他に見つけるのも難しくなっています。復活できるものなら少しく、歴史と共に残していければと思った次第です。

公民館講座 第2回 写真講座



8月24日月曜日に第2回写真講座(全4回)を実施しました。

今回はMウイング近隣を歩き、ストリートスナップをしました。撮影は、手まり時計と開智橋で行いました。写真を撮った後は室内に戻り、撮った写真を皆で鑑賞しました。写真を見比べると同じ場所から撮った写真であつても、撮る人によって切り取る風景が違うという面白さがありました。



↑参加者が撮影した写真

電車通り

近年、観光や就労目的で多くの外国人が日本に来ています。そうした外国人たちと在来(?)の日本住民との間の軋轢も聞こえてきます。とにかく外国人は母国に帰れという意見から異文化を受け入れ共生が大事だという意見までいろいろ聞こえます。

大げさに言うくと、世界の異民族との遭遇の歴史には大雑把に二通りあると思うものです。一つは異民族を敵視する考え、もう一つは友人と見る考え。世界には異民族皆殺しの歴史も多々ありますが、わが国では古来異民族を友好的に受け入れ、その長所を取り入れてきた伝統があります。縄文弥生などの時代における異民族受け入れは、わが国の自然風土が豊かな食物を提供できたことや、稲作勃興が人口扶養力を各段に高めたこと、そして異民族の流入も海のおかげか少しずつ長期にわたっているのも両者が融合してゆく時間を与えてくれたようです。今後の外国人たちとの関係へのヒントになるかもしれません。